

環境

AKITA
あきた

県民フォーラム
通信 No.25

発行日:2008.2.15

2008
特別号

発行/NPO法人 環境あきた県民フォーラム
秋田県地球温暖化防止活動推進センター ACCCA
〒010-1403 秋田市上北手荒巻字堺切24-2 遊学会(秋田県ゆとり生活創造センター)内
TEL・FAX 018-839-8309
E-mail:mail@eco-akita.org ホームページ:http://www.eco-akita.org/



おらほのCO₂ダイエット作戦!!

一村一品プロジェクト 特集

2007



秋田県地球温暖化防止活動推進センター
Akita Center for Climate Change Actions

目次

最優秀賞/秋田菜の花ネットワーク	…2
優秀賞/癒しの川に癒しの木橋を架ける会	…3
優秀賞/秋田市環境部環境企画課	…3
大畑BDFの会(大畑部落婦人部)	…4
オランの会(仁賀保バイオマス利用促進会)	…4
有限会社 BPA	…5
有限会社 企業さきがけ	…5

赤沼侃さん	…6
秋田キャンパスネット	…6
株式会社 秋田魁新報社	…7
秋田市環境活動推進協議会	…7
京都議定書達成は	…8
お知らせ	…8



最優秀賞

●団体名・個人名：秋田菜の花ネットワーク

●取り組み名：菜の花かおる元気なふるさと秋田をつくろう

■代表者：石田 哲治

■担当者名：鈴木 秀雄

■拠点：県内

■実施期間：2005年3月～

■実施場所：全県

■参加人数：約60

■HP：http://www.akita-pu.ac.jp/stic/syokukai_02.htm

■活動内容

2003年4月に、菜の花を通して秋田型の地域循環型社会作りを目指し結成、現在では農家、自治体、建設会社、産廃業者、運送会社、大学教授、個人、NPO法人など多彩な顔ぶれで43名20団体もの県内全域を網羅するネットワークに成長した。「秋田の元気は農業、農家から」を基本に、環境と農業の融合、ローテクでローコストの実現、最終的には秋田の農業の活性化へとつながる取り組みを目指している。

県内唯一の菜の花に関するネットワークとして、「良いものはみんなで」をモットーに情報共有を図り、最新情報を全体で共有している。県内の菜の花栽培敷地面積の拡大を推進しており、右肩下がり農業粗生産額の動向を反映した減反等による広大な不付付地に焦点を合わせ、5年で5,000haの菜の花栽培を目指している。また、「秋田流」菜の花多段階活用を基本戦略とし、地域に根ざした環境配慮型菜の花活用戦略を行っている。県内にはネット

ワーク会員である、オランの会（にかほ市）、大畑BDFの会（美郷町）などの団体や、（有）企業さきがけ（美郷町）、三衛クリーンサービス（にかほ市）などの企業が廃食油からバイオ・ディーゼル・フューエル（BDF）を精製・利用しており、今後は各地で菜の花の作付けを増やし、菜種油の地域での多段階利用をより一層促進する。

現在NPO法人申請中であり、法人格所得後は社会的信用も含め、より発展的な事業展開を想定している。菜種油の県内搾油施設が小坂町に2007年12月中旬に移転する予定であるが、今後の作付面積から施設の搾油能力を超えてしまうため移動式搾油施設の移動を予定している。また、2008年には予定しているだけでも50haの菜の花の作付面積増加があり、今後より一層の拡大を目指す。

※ エントリーした大畑BDFの会、オランの会、有限会社BPA、（有）企業さきがけは菜の花ネットワーク会員です。

「秋田流」菜の花多段階活用の基本理念

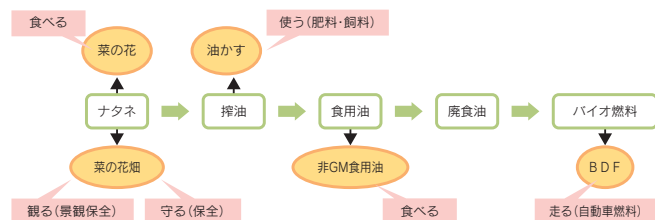
- ①農業と農村を**元気**にする（＝農業・農村の再生）
- ②CO₂排出抑制のため**小地域での循環型ビジネスモデル**を創る
- ③**都市と農村の連携**で①と②を実現する

■バイオ・ディーゼル・フューエル（BDF）とは

菜種油・ひまわり油・大豆油・コーン油などの生物由来の油や、各種廃食用油（てんぷら油など）から作られる軽油代替燃料（ディーゼルエンジン用燃料）の総称。バイオ・ディーゼル燃料やBDFと略されることも。燃焼によってCO₂を排出しても、大気中のCO₂総量が増えない（カーボンニュートラル）。バイオ・ディーゼル・フューエルは、従来の軽油に混ぜたり、そのままディーゼルエンジン用燃料として使用できるため、CO₂削減の手段として注目されている。また、従来の軽油と比較して、硫黄酸化物（SOx）がほとんど出ないという利点もある。



～全工程で小地域循環連携型のビジネスモデルの構築～



「秋田流」菜の花多段階活用の基本戦略

○技術のあり方：「**農**」から「**工**」へ**ナチュラルに利用**し、循環させる

- ①**物質代謝**に沿った農業（輪作、低・無農薬、不耕作地の利用、副産物の活用）
- ②環境低負荷の**誰にでもできるBDF製造**：無理に販売しない（「手づくり・ローテク・ローコスト」）

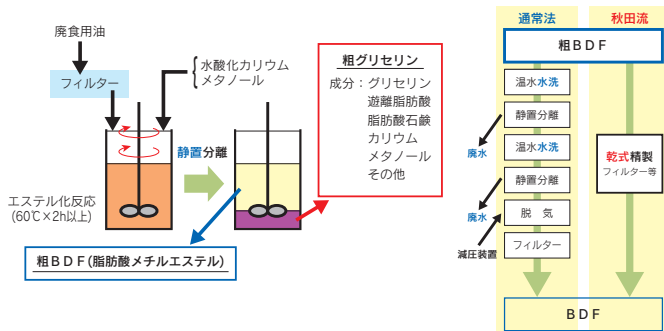
○製品差別化：環境に負荷を与えない、**安全・安心**な本物の製品づくり

- ①食用油：新鮮、**非GM（非遺伝子組み換え）**、圧搾法（化学薬品不使用）、高純度
- ②BDF：環境低負荷（**水洗いしない**）、一定品質

○組織のあり方：新たな「**協働・連携関係**」をつくる

- ・リタイア層＋現役層（地域内）
 - ・生産者＋消費者＋企業＋大学＋自治体（地域を越えて）
 - ・都市＋農村（それぞれの「**資源**」を持ち寄る）
- 都市にある資源：金、知恵、情報、労働力
農村にある資源：農地、自然、知恵（農業技術）、シルバー労働力

手作り感覚！ ローテク・ローコストの無水洗BDFの製造



■取り組みを通しての感想

忘れもしない、1999年、石原東京都知事が記者会見でペットボトルを振り上げ「ディーゼル車NO作戦」の発表を行った。「ディーゼル車は悪者」というイメージを印象づけられてしまったトラック事業者の一人として都民の健康を損ねるこのダーティなイメージを払拭したかったのがこの事業の発端である。大気を汚染する排気ガスをゼロにするには、石油燃料を使ってはならない。植物油に切り換えようという研究が始まった。休耕田や畑に菜の花を植えてナタネを採り搾油し地域で消費済みの油を回収しバイオディーゼル燃料（BDF）をつくり農耕機械や自動車の燃料に使い、また菜の花の種を蒔く。この一連の作業が資源循環型社会の形成や地域興しに些か役立つものと考えている。最初は自社で製造したBDFで30台分のトラックを稼働させていたが、現在は大仙市の農家にBDFの一部の生産を委託している。今は3戸の農家だが今年は10戸に予定している。

■秋田県の皆様へ

戦争に敗れ極端な貧困に陥った日本人が骨身を惜しまずに働き続け戦後40年にして世界一の豊国となった。だが大量の生産が大量の消費となりまた大量の廃棄を生み地球環境に重大な影響を与え人類の生存を脅かしているのが現実の姿である。

翻ってわが秋田はどうか。新しい世紀をいかなる理念で望み進むべきか。まず選択すべきは、20世紀の工業、物質文明の否定であり、大気汚染、水質汚濁、自然破壊からの脱却である。全ての行為はこの思想を機軸とし、農業、鉱工業、製造非製造全ての分野で価値の優先順位を見直し、その手段を健全な環境創造に歩調を合わせることである。幸いにしてわが秋田は物質主義とは遠く距離をおいた存在であった。何のものにも代え難い貴重な目に見えない幾多の資源の保有県であり、そこから如何なる価値を創るか、すべての県民の知恵を働かせるときである。

優 秀 賞

●団体名・個人名：癒しの川に癒しの木橋を架ける会 ●取り組み名：プレストレスト木橋の施工

■代表者：保科 恵一 ■担当者名：本間 邦夫 ■拠点：由利本荘市 ■実施期間：2001年（架橋1本目）～
■実施場所：由利本荘市鳥海町百宅（玉田溪谷）、県内 ■参加人数：6 ■HP：<http://www.cna.ne.jp/~presto/>

■ 活動内容

プレストレスト工法で木橋を作ることにより、以下の理由により大幅なCO₂削減効果が見込まれる。
・鋼橋やコンクリート橋と同程度の対荷力がある ・施工費用の削減と施工期間の短縮 ・車の入れないところにも施工できる
・間伐材の有効利用 ・施工の簡便さと撤去時の簡便さ ・撤去時の産業廃棄物がほとんどでない(その部材のほとんどが再利用できる) ・国土交通省認定の新技術である ・太平山と森吉山の両県立公園内に1本ずつ架橋済み（平成18年11月）



■ 取り組みを通しての感想

私たちの団体は、主に「プレストレスト工法を活用した木橋を架けていただくこと」を推進する『癒しの川に癒しの木橋を架ける会』です。橋梁工事は主にコンクリート橋や鋼橋等ですが、その材料の製造、運搬、架橋工事そして数十年後の撤去工事、その産業廃棄物処理と、その時々での二酸化炭素などの排出量は莫大です。

橋梁としてのプレストレスト木橋のCO₂排出レベルは、コンクリート橋や鋼橋と比べ、廃棄コストまで考えると数十分の一です。今の日本の公共(橋梁)工事は、コンサルタント会社や大手の建設会社がそのほとんどを握っているのが現状で、新規参入できないのが現実です。地球環境への関心が高まってきていることは、最近のマスコミの報道を聞いていて実感しています。

私たちが水辺に近づくことが水源や森のこと、ゴミ処理問題、水道、川や海洋汚染のことなど、さまざまな問題を考えるきっかけになることと思います。山を見れば何百万本という秋田スギが手入れの行き届かないスギ林となっています。そのような杉でも木橋の資材として活用すれば資産(付加)価値となり所有者、林業家、製材業者が潤うことができます。ただ単に「昔の生活のようにすれば二酸化炭素などの排出量が減る」という『我慢』だけでは長続きするはずがありません。秋田スギが秋田県民の所得の向上に結び付いて初めて森林の保全、持続可能な地球温暖化防止推進となり、京都議定書の削減目標達成となることでしょう。

■ 秋田県の皆様へ

プレストレスト木橋の開発者は由利本荘市出身です。秋田スギ(間伐材)が活用できます。観光資源としての活用ができます。食の地産地消や食育が定着してきました。建設の地産地消という意味でメッセージを送りたいと思います。プレストレスト工法の木材部分は秋田スギでできます。秋田県には能代をはじめとした木材の加工技術があります。性能の実証実験を行うには秋田大学、県立大学があります。架橋の労働力は秋田県内にたくさんあります。フードマイレージという考えがありますが、そのような考えでもこの架橋は環境にやさしいことと思います。

木橋自体が観光資源となります。白神山地や男鹿周辺、田沢湖や角館、鳥海山周辺など秋田県はその豊かな自然と人情が観光客には好評です。そのような自然豊かな秋田県の風景には木橋はとてもマッチすることでしょう。それと忘れてならないのはその廃棄コストです。今までの公共工事では建設コストのことは様々議論されて建設されますが、「廃棄コスト」を考えてきませんでした。秋田県民塾生や地球温暖化防止活動推進員、あきたエコマイスターや省エネ推進員など環境保全活動に興味を持っている人の輪がますます県民に広がることを願っています。

優 秀 賞

●団体名・個人名：秋田市環境部環境企画課 ●取り組み名：市民版ISO（e-市民認定システム）

■代表者：伊藤 守 ■担当者名：岡林 加奈 ■拠点：秋田市 ■実施期間：2004年～ ■実施場所：秋田市内
■参加人数：2107（2007年8月現在） ■HP：<http://www.city.akita.jp/city/ev/rc/>

■ 活動内容

進みつつある地球温暖化の防止とごみの減量のため、今まで環境に感心が無かった市民も含め、環境にやさしいライフスタイルづくりを目指し、各家庭において環境にやさしい取り組みを促進している。

●初級コース

その場で自分のライフスタイルをチェックし、チェックした点数でe-市民度の判定を行う。提出された内容に基づき、省エネにより家庭で削減可能な二酸化炭素排出量と節約可能な金額を試算し、生活スタイルのアドバイスを行う。

●中級・上級コース

各世帯のごみの排出量や光熱水の使用状況を2ヶ月ごとに報告

してもらう。6ヶ月で中級コース認定、12ヶ月で上級コース認定を行う。また、e-市民参加者が事例発表を行うe-市民コンテストの開催や、年4回の会報の発行など、市民への適切な取り組み事例の紹介・アドバイスなどを行う。



■ 取り組みを通しての感想

今回の受賞は、多くの市民の皆様が家庭での省エネやごみの減量など、環境活動を実践していただいた結果としての受賞なので、大変嬉しく思います。

環境活動は、テレビは見えていないときは消すなど身近なものから誰でも取り組むことができ、一人一人の心がけが大切です。地球温暖化防止のために、個人から家庭や地域などへ地球にやさしい「環」が広がればと思います。

■ 秋田県の皆様へ

秋田県は四季折々の自然を直接目や肌で感じることができ、また食べ物も美味しく、大変すばらしい風土と気候に恵まれていると思います。他県に誇れるような秋田を将来までずっと残していけるように、秋田を大切に思い、自然に恵まれた秋田を守っていきましょう。

●選考委員名簿（敬称略）

委員長 山本 久博 NPO法人環境あきた県民フォーラム理事長
秋田県美容組合理事長
委員 泉谷美津子 風の樹園地オーナー
菊地 英治 秋田県立大学システム科学技術学部 准教授
工藤 兼勝 NPO法人環境あきた県民フォーラム理事、あきたエコマイスター
桑原 耕一 秋田県生活環境文化部環境あきた創造課 参事兼課長

佐藤 裕 株式会社 秋田魁新報社 総務局次長 兼 総務部長
那須チカ子 あきた環境カウンセラー協議会 副会長
橋本 泰幸 株式会社ABS秋田放送 総務局長
半田 真一 株式会社エフエム秋田 代表取締役社長
谷川原郁子 近くの山の木で家をつくる会代表、
やがわら郁子設計室 一級建築士

●団体名・個人名：大畑BDFの会（大畑部落婦人部）

●取り組み名：使用済み食用油回収（環境保全向上循環型・温暖化防止挑戦・トラクター様BDF普及活動ほか）

■代表者：細井 諭 ■担当者名：細井 諭 ■拠点：仙北郡美郷町 ■実施期間：2006年7月24日～
■実施場所：美郷町大畑地区内 ■参加人数：約150（52世帯）

■活動内容

大畑地区の住民が菜の花づくりを楽しみ、菜種から自宅用トラクター燃料用の「バイオ・ディーゼル燃料（BDF）」を作り出す日本一の菜の花油田を目指す（遊休農地からの産業革命）。

菜の花畑の普及で荒廃した遊休農地、減反田の再生と景観作物としてさらに美しい郷作りと観光地化（千畑山麓）も期待できる。2005年秋に菜の花を植え、翌年から採種しBDFを製造し秋田美郷菜の花クラブ会員への提供をしている。

- ①地区各家庭からの廃食油を提供
- ②所有畑地等への菜の花畑の普及拡大
- ③各家庭電気消費減、自家用車の利用減少、買い物時レジ袋削減（マイバッグの使用促進）等省エネ、温暖化防止に向けた意識の高揚と誰にでも出来る身近な環境保全のための行動活動を開始

■取り組みを通しての感想

地球規模で考えるとわずかですが、少しでも活動が広まり、地球にとっても、また、自分たちの生活にとっても環境が良くなるように今後も活動を継続していく予定です。



秋田菜の花ネットワークの会員です

●団体名・個人名：オランの会（仁賀保バイオマス利用促進会）

●取り組み名：エネルギーも地産地消

■代表者：井上 正英 ■担当者名：井上 正英 ■拠点：にかほ市 ■実施期間：2003年6月8日～
■実施場所：にかほ市一円 ■参加人数：約130

■活動内容

オランの会は2003年6月8日に設立し、バイオマスの利用促進を図ってきた。2004年8月、「エネルギーも地産地消」しかも食料と競合させないで地域完結型を目指し「菜の花を植えて車を走らせよう」のテーマで菜の花フォーラムを開催、これに賛同した三衛クリーンサービス（株）が同年10月自社においてBDFを精製、現在主に事業系から年間22000リットルの廃食油を回収し自社のゴミ収集車11台がBDFを燃料に運行している。

にかほ市では2007年8月から一般家庭を対象にした廃食油の回収に動き出した。回収拠点は現在3箇所だが今後増やしBDFを公用車に使用したいと考えている。



■取り組みを通しての感想

応募が少なく意外な感じがした。まだまだ取り組んでいる方々が大勢いると思うので、その発掘や指導の必要性を感じた。啓発活動には限界がある。ハード事業を実践するだけのノウハウが無く忸怩たる思いも。一次産業が元気になれば地域の活性化はない。環境を見すえた行政の農林水産業への抜本的改革え、尚一層の転換が急務であると感じる。

■秋田県の皆様へ

私どもの生活は、あまりにも便利社会にどっぷりと浸かり過ぎである。地道に・質素に・モッタイナイが薄れてきている。今の生活に、面倒くさがらず、億劫がらず、ほんの少し手間隙をかけるだけで良いのです。

無関心層とのギャップがあまりにも大きすぎ、それを埋めるためには相当のエネルギーを必要とするが、活動が少しずつではあるが前進しており、これが留まることのないよう、ゆつくりと焦らず継続していきたい。

クイズ 3

自動車の燃費向上に役立つのは？

- ①重い荷物を積む ②ガソリンを満タンにする ③タイヤの空気圧を適正に保つ

秋田菜の花ネットワークの会員です

●**団体名・個人名**：有限会社 BPA
●**取り組み名**：ネフロンシステム

■ **代表者**：草薙 巧 ■ **拠点**：秋田市 ■ **実施期間**：2007年4月1日～ ■ **実施場所**：県内
■ **参加人数**：1

■ **活動内容**

ネフロンシステム（潤滑油再生装置）とは、エンジンや機械の予防工学として人間でいうところの腎臓機能を持たせることにより、エンジンや機械を正常に保つことを可能にしたシステムである。その結果、潤滑油のエンドレス使用が可能になるために大幅な廃油の削減ができ、資源保護に良だけでなく経費削減にもつながる。潤滑油が良い状態に保たれるので燃焼効率が良くなり機械寿命の延命、CO₂削減、燃費の維持が期待できる。



■ **秋田県の皆様へ**

約半世紀前に、船舶の潤滑油洗浄装置として開発された「ネフロンシステム」が化石燃料である潤滑油だけでなく、優れた濾過器として別の分野にも試され使われております。

この「ネフロンシステム」を、循環型社会の古くて新しい方法として資源保護・環境保全に役立てていきたいと考えています。

●**団体名・個人名**：有限会社 企業さきがけ
●**取り組み名**：環境保全・向上・循環型の温暖化防止への挑戦

秋田菜の花ネットワークの会員です

■ **代表者**：佐藤 政雄 ■ **担当者名**：佐藤 政雄 ■ **拠点**：仙北郡美郷町 ■ **実施期間**：2006年10月～
■ **実施場所**：美郷町千畑地区遊休農地転作田1.2haから開始（2005年9月から作付け） ■ **参加人数**：3

■ **活動内容**

秋田菜の花ネットワーク会員「(有) 企業さきがけ」は春先菜の花を食し、菜の花を自らも楽しんでいるが、広く地域の皆さんからも楽しんでいただいている。無農薬で安全安心な純正のナタネ油を使った食事を食べ、その使用済み油を回収または購入し軽油の代替燃料であるバイオ・ディーゼル燃料（BDF）を製造し農機具（トラクター等）に使用している。

近年の化石燃料の高騰にも対処しつつ、二酸化炭素（CO₂）削減を目標とし、地球温暖化防止に貢献しようという意気込みでさらに菜の花面積の拡大を目指している。又、バイオ・ディーゼル燃料（BDF）製造時に、2割強出てくる粗グリセリンの有効活用方法は全国でもまだ確立されていないが、昨冬からビニールハウス用の冬季用加温機に補助燃料として利用し、化石燃料（A重油）の約35%削減に成功した。



■ **取り組みを通しての感想**

「めざします、葉の花で自然循環型の地域社会を」というスローガンで活動してきました。秋田県の菜の花作付面積が2007年で210haを越えましたが、私共も短期間でこのような広がりをみせるとは想像しておりませんでした。しかしナタネとして収穫予定はそのうち3割でまだまだ景観形成としての位置づけのようですがCO₂削減という面では貢献しており、今後作付増が期待されます。

また、バイオ・ディーゼル燃料（BDF）に関しては、事業系の廃食油はすでに多くがリサイクルされておりますので、これからは家庭系廃食油の回収を急ぎ、各地域ごとに秋田型（製造プラントの過剰な投資をしない）プラントでの手作りバイオ・ディーゼル燃料を製造し利用していくことが理想だろうし、必要だろうと思います。マスコミでは連日のように地球温暖化・温暖化効果ガス削減を取り上げていますが、まだまだ環境に対する意識が低いように思われます。ナタネ油や天ぷら油は貴重な資源であり、燃料でありますので更に周知徹底を図る必要があるように思われます。

■ **秋田県の皆様へ**

現在、原油の高騰で世界各地でナタネやトウモロコシなどが食料から燃料に変わろうとし、価格が高騰しています。化石燃料だけに依存するとCO₂排出が増加し地球温暖化が進むということで、毎年生産可能でカーボンニュートラルな植物（バイオ）からできる、バイオマス燃料（ディーゼル車用BDFとガソリン車用エタノール）に目が向けられました。

世界の食料輸出国が自ら「食料から燃料へ」と進み始めました。アメリカが3,200万tのトウモロコシをエタノール精製にまわしたため、1億人分の食料が消えたそうです。発展途上国の生活レベルが上がれば、今以上に熾烈な燃料の奪い合いが予測されます。そのとき日本は輸入することができるのか。

ドイツは第一次オイルショックの時に国家非常事態として遊休農地にナタネを植えてバイオ燃料（BDF）の製造を始めたということです。今まさに日本は国策としてやるべきではないでしょうか。お金を出して輸送にCO₂を排出し、BDFとエタノールを輸入することのないように、国内の耕作放棄地、遊休農地の解消を図りながらBDF用のナタネを生産すれば、農村・農家も元気になることでしょう。近い将来必ずそうなることを期待しながら、食料と燃料の自給率が上がる農業をやりましょう。

●**団体名・個人名**：赤沼 侃さん
●**取り組み名**：自宅で太陽光発電

■ 拠点：秋田市 ■ 実施期間：2006年6月1日～ ■ 実施場所：秋田市 ■ 参加人数：1

■ **活動内容**

1990年、湿気に強い高気密高断熱の家を建て冷暖房エネルギーの減少にほぼ満足していたが、地球温暖化問題や原油価格高騰に危機感を持ち、2006年、太陽光発電を自宅を開始。開始に当たり①屋根を寄棟型から切妻型に改修し南向き面を増やす ②屋根の傾斜を太陽光発電に最適30度にした。

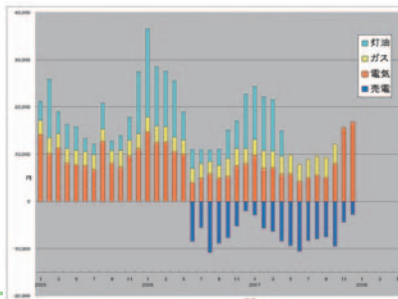
毎日の値をパソコンに入力、グラフなどで分析。1年経って効果を実感、冷蔵庫を買い替え1日平均3KWの節電ができた。現在、白熱電球を省エネ電球に替え測定中。オール電化住宅の工事を行い2007年11月から更なるCO₂削減を図っていく。

■ **取り組みを通しての感想**

食糧不足やエネルギー問題、加えて年金はどうなるのか？ 退職後の生活を考えると頭が痛い。現役のうちに省エネの仕組みを作り、ランニングコストを下げて老後の生活を守ろうと考えた。CO₂削減にもなる。

秋田の日照時間は日本一少ないが風は強い。冬は激減する太陽光発電に風力発電を併設すれば、家庭エネルギーは自給できる。県にこれらを積極的に推進してほしい。地球温暖化防止へ家庭が参画することになり、秋田発の世界に類を見ない大きな底辺拡張になるからだ。「家庭からのエコ先進県」は、秋田県の大膽なイメージアップになる。県の指導力を期待したい。

「地球は未来の子孫たちから借りているもの」だから、代々きれいにして手渡して行きたいものだ。



■ **秋田県の皆様へ**

原油を100%輸入に頼っているわが国には、灯油価格を下げる力など全くない。地球環境と併せて考えると「脱灯油」しかない。雪国秋田でも「太陽光発電」は充分機能する。さらに「オール電化」にすれば、灯油価格に脅えることもなく、重い灯油缶で腰を痛めることもなく、「ガスの元栓を締めたかな」という心配もなくなる。

一緒に、太陽光発電・風力発電・オール電化による「省エネ」活動を始めてみませんか。

●**団体名・個人名**：秋田キャンパスネット
●**取り組み名**：AA（秋田・アフリカ）プロジェクト

■ 代表者：中村 冬人 ■ 担当者名：上窪 正道 ■ 拠点：秋田市

■ 実施期間：2007年5月20日～7月7日

■ 実施場所：秋田拠点センターアルヴェ（5/20、6/9は3階市民交流サロン、7/7 1階きらめき広場）、カレッジプラザ（6/24）、ノースアジア大学キャンパス（6/30） ■ 参加人数：740 ■ HP：http://www.akita-kenmin.jp/a_c_n/

■ **活動内容**

秋田県出身のアフリカのマラウイ共和国で活動する青年海外協力隊の学校へサッカーボールやユニフォームなどを送るAA（秋田・アフリカ）プロジェクトでの取り組み。サッカー関連グッズの収集呼びかけとアフリカ勉強会を同時進行し、送付物品の寄付呼び掛けとアフリカ理解を行うイベント内でエコと温暖化防止の意識啓発を行った。

すべてのイベントで売ったフェアトレードコーヒーの抽出工程で出るコーヒーのかすを全て乾燥させ、脱臭剤・猫除けとして庭に撒ける自然素材としての再利用を行い、7月7日の最終イベントで配布した。同時にコーヒーの販売には、実行委員で個人のマグ

カップをもちよって、リユースカップとし、お客様に紙コップかリユースカップか選べるようにした。スティックシュガー、プラスチックマドラーの使用をなるべく控え、フェアトレードの砂糖を瓶に入れ配置し、各自スプーンで好きな量を入れてもらうセルフにした。また、移転する古着屋から廃棄予定の大量のTシャツ・シャツ類をもらい、エコバックに加工して同じく7月7日の最終イベントで販売した。

●PRポイント：CO₂削減の意識を持ってもらうために、国際協力活動の一環として取り組んだ全てのイベントで、コーヒーを買いにきたお客へリユースカップの利用促進、スティックシュガー・プラスチックマドラーの利用控えを行った。

■ **取り組みを通しての感想**

小さなことから始めることが大事だと感じた。リユースカップの利用、プラスチックマドラー等の利用控え、コーヒーカスの再利用などは誰にでも出来るけれども、簡単すぎて小さすぎて逆になかなかやれないことだ。国際協力を啓発するイベントで世界の問題をちょっとでも考える取り組みが出来たことがうれしい。

■ **秋田県の皆様へ**

地球の問題は、私たちの若い世代の問題でもあり、また次の世代の問題でもあります。背伸びをしないで、できることから始めましょう。



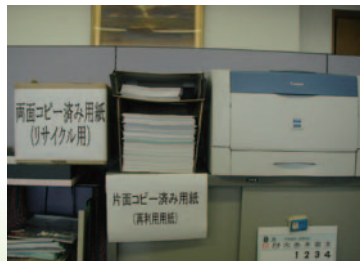
●団体名・個人名：株式会社 秋田魁新報社

●取り組み名：自社の省エネ取り組み

■代表者：佐藤 暢男 ■担当者名：佐々木 真理 ■拠点：秋田市 ■実施期間：2006年9月21日～
■実施場所：本社屋 ■参加人数：330 ■HP：http://www.sakigake.jp/

■活動内容

- 電力消費の抑制に努めています（CO₂削減前年度2%を目標）
 - ・業務中には必要個所以外の電力節電を心掛け、冷暖房は28度程度の設定にするよう社内の啓発活動を推進しています。
 - ・業務に不要な照明の消灯に努めています。
 - ・紙ごみの減量化に努めています。
 - ・片面使用の紙の裏側を再利用しています。
 - ・会議用資料簡素化により紙の使用量の削減に努めています。
- エコドライブ推進に努めています。
 - ・空ぶかし、急発進、急加速を行いません。
 - ・最短距離での計画的ドライブを行っています。
 - ・定期的な点検整備に努めています。
- エコ製品の活用にも努めています
 - ・商品購入の際には価格のみではなく、環境への負荷も比較検討し長期的な観点で選択し購入しています。
- 環境保全活動を推進します
 - ・事業所敷地内の清掃、整理・整頓に努めています。



■取り組みを通しての感想

秋田魁新報社では平成19年度一村一品事業として、紙ごみの減量をねらい、業務で不要になった紙の裏面の再利用を掲げました。現在、一部プリンターでこの紙を使用しており、残った分はリサイクルに回しています。新聞紙もまた非常にリサイクル効率のよい故紙ですので、より一層の分別回収に努め、循環型社会の形成に寄与したいと考えています。また、本社内で初めてクールビズ・ウォームビズを導入しました。クールビズは記録的な猛暑の中での実施となり、ネクタイを外しながら地球の温暖化を憂う姿があちこちで見られました。ウォームビズは現在、全館一括管理の暖房を20℃に設定したうえで各フロアの暖房をそれぞれ現在の設定より1℃下げるといった緩やかな形で導入しています。

19年度はハード面への投資による温室効果ガス削減も大きいものとなりました。それまで山王臨海町の本社屋にあった印刷部門を御所野の印刷センターに移し、省エネ面に優れた輪転機を導入しました。同センターは4月より移動しており、従来より色鮮やかな紙面で読者からも好評を得ています。最近の例では、それまでの感熱紙専用の高速プリンターを普通紙用のものに変えたことにより故紙のリサイクル効率を向上させました。9月からは環境問題に対する意識の向上・啓発を図る魁キャラクター入りのエコバッグを製作・販売しており人気があります。

20年度は、会社全体でチームマイナス6%運動に力を入れ、経費削減につなげていくことになりました。社員一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

■秋田県の皆様へ

秋田魁新報社では、地球環境を守り、改善していくための企業努力を続けながら、これからも報道や事業を通じ、環境保全を県民の皆様と呼び掛けてまいります。

●団体名・個人名：秋田市環境活動推進協議会

●取り組み名：平成19年度 市民フリーマーケット

■代表者：岡部 勇作 ■担当者名：高橋 尚夫 ■拠点：秋田市 ■実施期間：2007年8月19日(日) 午前9時30分～午後2時
■実施場所：秋田港イベント広場（ポートタワーセリオン隣） ■参加人数：約3,500

■活動内容

秋田市環境活動推進協議会の事業目的の一つである循環型社会の構築やごみの発生抑制・再利用を推進するとともに、市民の環境意識の向上を図ることを目的に、家庭で不用となっている品物を有効利用するフリーマーケットを開催した。

【内容】

- (1) 協議会主催によるフリーマーケットの開催(賛助会員による企業PR等も含む) (2) 紙ひも教室の実施(10:30～、13:00～の2回) (3) 打ち水大作戦2007の実施(12:00～) (4) 電子版フリーマーケットコーナーの出版 (5) e-市民度チェックコーナー(秋田市環境部) (6) 「安東氏と秋田湊 考古学からみた土崎地区の中世史」(講師：秋田市環境部職員)



■取り組みを通しての感想

秋田市環境活動推進協議会のリサイクル部会では毎年夏休みの最後の日曜日にフリーマーケットを開催しています。フリーマーケットでは産地直送野菜の販売や紙ひものしぼり方教室のほか、今年は「安東氏と秋田湊」の講演や電子版フリーマーケットの出版、秋田青年会議所の皆さんの協力で「打ち水」を行いました。これからも皆さんが参加して楽しいイベントとなるような企画を考えていきたいと思っています。

■秋田県の皆様へ

「使わないけど、捨てるのはもったいない」
皆さん、そんな経験はありませんか。自分が不要な物でもフリーマーケットでほかの人に譲って有効に使っていただければ、ごみも減らすことができます。

そんなフリーマーケットに県民の皆さんも参加しませんか。



京都議定書達成は

秋田県地球温暖化防止活動推進センター長
高村 文子

2008年、地球温暖化防止に向けて温室効果ガス排出量削減を義務づけた京都議定書の第一約束期間がスタートしました。

1990年を基準年として先進国が削減目標を定めており、日本はマイナス6%です。2003年の秋田県温室効果ガス排出量は、マイナスどころか23.2%の増加（CO₂は33.6%）しており全国は7.7%（CO₂は12.3%）の増加ですから、秋田県では高い増加率となっています。

2012年までの5年間で削減目標が達成されない場合、京都メカニズムと呼ばれる他の国から排出権を購入する方法で賄うことが検討されています。平たくいえば、温室効果ガス削減量の多い国へお金を払って排出量を譲ってもらうということです。そのお金は当然ながら税金ですので、最終的な手段でなければ、許容できるものではないと思います。

一人ひとりの国民の取組や業界など経済界の自主努力に対しては、国策として規制は、なじまないとして呼びかけ程度になっているのが現実です。

もともと資源を多く持たない日本では、原油価格が異常なほど高騰している今、生活・産業活動、すべての面で改めて見つめなおすことが必要であり、削減に取り組むことが精神的な充足のみならず具体的に得になるような仕組みを目指すべきです。

「おらほのCO₂ダイエット作戦」は、環境省委託事業でストップ温暖化一村一品大作戦の秋田県の事業名です。地域に根ざした温暖化防止活動を発掘し、あらゆる場面で可能な温暖化防止活動を盛り上げていこうという事業です。

平成19年度秋田県代表は「秋田菜の花ネットワーク」の活動に決定しました。何気なく行っていることが、実は温暖化防止につながっていることが数多くあります。どうぞ、事務局まで情報を寄せていただきますよう、よろしくお願いいたします。



癒しの川に癒しの木橋を架ける会



秋田市環境部環境企画課



秋田菜の花ネットワーク総会で
最優秀賞を授与



「おらほのCO₂ダイエット作戦」秋田県代表選考委員会



入会について あなたも参加しませんか♪

未来の子どものために、秋田の環境をよりよくしていこうという活動の応援団です。当法人の活動やこのフォーラム通信発行のために会費を負担していただいています。

○会費

区分	社員	一般会員
企業・企業関係団体	1口：1万円 年1口以上	1口：1万円 年1口以上
個人・民間団体	1口：3千円 年1口以上	1口：1千円 年1口以上

○会費納入について

秋田銀行 県庁支店 普通 560425 北都銀行 山王支店 普通 6099633
J Aバンクあきた 本店 普通 0007634 郵便振替口座 02280-7-76146

いずれも特定非営利活動法人 環境あきた県民フォーラム宛です。

なお、新規ご入会の場合、フォーラム通信送付の都合上、銀行とJ A振込の場合は事務局に「ご住所・お名前」をご連絡ください。

特定非営利活動法人 環境あきた県民フォーラム事務局
秋田県地球温暖化防止活動推進センター

〒010-1403 秋田市上北手荒巻字堺切24-2 遊学舎（秋田県ゆとり生活創造センター）内
TEL・FAX 018-839-8309 Eメール mail@eco-akita.org ホームページ <http://www.eco-akita.org/>

AGCCA

ストップ！温暖化